

# 岡崎 文雄 著 大分の石橋探訪



Vol.25 日出町・別府市

速見郡日出町・別府市  
初版：2007年9月21日発行

## 目次 &amp; 収録石橋目録

(表中をクリックすると各橋のページが開きます)

新市郡	合併前の市町村名	番号	橋名	きょうめい	所在郡市町村名	種類	架替時期
速見郡 ／別府市	日出町	261	今畑橋	いまはたばし	速見郡日出町今畑	アーチ橋	
	別府市	262	赤松橋	あかまつばし	速見郡日出町大字藤原赤松	アーチ橋	
	別府市	263	【天間水路橋】	あまますいろきょう	別府市大字天間	アーチ橋	H 14 年撤去
	別府市	264	城の内橋	じょうのうちばし	別府市内竈	アーチ橋	
	別府市	265	中組橋	なかぐみばし	別府市鉄輪	アーチ橋	
	別府市	266	板地橋	いたじばし	別府市南荘園町	アーチ橋	
	別府市	267	霊泉寺橋	れいせんじばし	別府市南立石	アーチ橋	
	別府市	268	南立石公園橋	みなみたていしこうえんばし	別府市南立石	アーチ橋	
	別府市	269	新貝橋	しんがいばし	別府市柳	アーチ橋	
	別府市	270	観海寺橋	かんかいじばし	別府市観海寺	アーチ橋	
	別府市	271	内成橋	うちなりばし	別府市大字内成	アーチ橋	
	別府市	272	久保鶴橋	くぼつるばし	別府市大字東山	アーチ橋	

- ① 各橋に便宜上 001 ~ 618 の通し番号を付加した。
- ② 【加勢橋】などカッコ付きは撤去された橋。
- ③ 市町村名は合併後の新市町村名称とし、合併で旧町村名が消えた町村は(旧佐賀関町)、(旧野津原町)(旧香々地町)(旧真玉町)を付記し、三光村○○→三光○○、大田村○○→大田○○、宇目町○○→宇目○○、直川村○○→直川○○など、旧町村名が分かるころは(旧町村名)は付記しなかった。
- ④ 区分けは新市単位とし、各市の中は合併前の町村単位に区分けした。
- ⑤ 桁橋の橋名は **植野橋** のようにゴチックの強調文字とした。
- ⑥ 年号には(1815)のように洋年号を付記した。
- ⑦ 旧町村指定有形文化財は合併後、市の指定になったかを確認し、最新の指定を記した。合併前の旧狭間・庄内・湯布院が文化財指定していたものは、由布市に合併後、指定が解除された。よって、旧町指定を表記した。

※「大分の石橋探訪」「オオイトデジタルブック」について／奥付け

<261>

今畑橋  
(いまはたばし)

日出町ではあるが、山香町の水の口湧水の上流にあたる場所にある。コンクリートで巻立てをしている。



今畑橋 ..... 日出町 今畑 / 架設年：昭和 27(1952) 年  
橋長：7.5 m / 橋幅：4.6 m / 単一アーチ

<262>

# 赤松橋

(あかまつばし)



<262>

赤松橋

(その2)



当時の国道 35 号線（現在の国道 10 号）に、八坂川を跨いで架設された石橋で、今は廃道となっている。

厳寒の中の工事に、コンクリートの養生方法なども十分な知識がなかったこともあって、多量のコンクリートが川床に捨てられてそのまま固まっているという。工事は中断を

命じられる等があり、工期も遅延して請負人都留茂一は違約金 2,910 円を徴され落札額 8,500 円を大幅に上回る 13,500 円の支出を余儀なくされている。左岸下流側親柱に刻まれた都留茂一の名前は執念の 2 字にも見える。石工は南端村（現杵築市山香町）安部福太郎とされている。

赤松橋・・・日出町大字藤原 赤松 / 架設年：明治 30(1897)年 9 月 / 橋長：47 m  
橋幅：5.9 m / 拱矢：3.7 m / 径間：18.5 m / 環厚：70cm / 2 連アーチ / 町指定史跡

<263>

【天間水路橋】

(あまますいろうきょう)

国道 500 号の上を跨いでおり、  
コンクリートで巻立てをしていた。  
平成 14 年 (2002) に撤去された。



【天間水路橋】・・・・・・・・・・・・・・・・ 別府市大字天間／架設年：不明  
橋幅：1.6 m／径間：8.9 m／単一アーチ

<264>

城の内橋

(じょうのうちばし)

柴石温泉の入り口からやや亀川方向に下った地点の山手にある。平成4年(1992)3月、3mほどの間隔を置いてすぐ下流側に新橋が架設されたため側面から橋の全景を見るのが難しくなった。基礎石積みは7段、三方張りのやや急な谷川(新川)に架設されている。要石の上に銘板がある。石工は高木源吉となっているが出身地などは不明。



城の内橋・・・・・・・・・・別府市内童／架設年：昭和10(1935)年3月  
橋長：7.0m／橋幅：2.4m／径間：4.5m／環厚：35cm／単一アーチ

<265>

中組橋

(なかぐみばし)



県道 218 号の橋で、鉄輪(かんなわ)市街地の真ん中にあるだけに石橋の存在に気づく人は少ない。詳しいことは判らない。

中組橋 ..... 別府市鉄輪 / 架設年：不明  
橋長：7.0 m / 橋幅：7.5 m / 単一アーチ

<266>

板地橋

(いたじばし)

別府商業高校の上手、山の手交番の傍らにある市道の橋で、下流側歩道橋の部分を拡幅している。起拱石の下、基礎の部分は石積みでなくコンクリートである。

発注者は占領軍工事の建設本部、受注は植良組傘下の今井組、施工現場での監督は中津市三光在住の白石浩氏である。



板地橋・・・・・・・・・・別府市南莊園町／架設年：昭和 22(1947) 年頃と推定  
橋長：10.0 m／橋幅：7.0 m／単一アーチ

<267>

霊泉寺橋

(れいせんじばし)



県道 52 号の橋であるが暗渠として管理されている。橋名は仮称である。

霊泉寺橋・・・・・・・・・・・・・・・・ 別府市南立石 / 架設年：不明  
橋長：5.0 m / 拱矢：1.2 m / 径間：1.8 m / 単一アーチ

<268>

南立石公園橋

(みなみたていしこうえんばし)

公園の池に架けた橋で仮称である。コンクリートを多用した石橋のようである。



南立石公園橋・・・・・・・・・・別府市南立石／架設年：昭和 57(1982) 年  
橋長：13.5 m／橋幅：4.7 m／拱矢：0.75 m／径間：2.8 m／2 連アーチ

<269>

新貝橋

(しんがいばし)

高崎山北面の急な谷川に架かる。  
現在は市道の横にあって廃道になっ  
ている。



新貝橋・・・・・・・・別府市柳／架設年：昭和10(1935)年頃と推定  
橋長：5.8m／橋幅：2.5m／拱矢：2.0m／径間：4.6m／環厚：30cm／単一アーチ

<270>

観海寺橋

(かんかいじばし)

当時の立石村の他に、地元の旅館が協力金を出して架設したようであるが、観海寺地区の開発のために、近くの不動産会社が県に2万5千円を寄付して架けたともいう。現在はコンクリートで巻立てをしている。



観海寺橋・・・・・・・・・・別府市観海寺／架設年：大正 11(1922) 年 10 月  
橋長：35.5 m／橋幅：5.5 m／単一アーチ

<271>

内成橋

(うちなりばし)

右岸は由布市挾間町で、左岸は内成地区で石城川に架かる。石工は大分市の高瀬茂である。



内成橋・・・・・・・・・・別府市大字内成／架設年：昭和8(1933)年3月  
橋長：11.4 m／橋幅：4.1 m／径間：8.3 m／環厚：52 m／単一アーチ

<272>

久保鶴橋

(くぼつるばし)



&lt;272&gt;

 久保鶴橋  
 (その2)


別府市朝見から由布市庄内町小野屋に通じる旧主要道路の橋であった。現在は地区のはずれ、農道で田んぼの中にある。小型ながらがっち

りした造りで、川底は石畳で整え洗掘を防いでいる。道路改良ですぐ上流側に新しい橋が架かり風景が一変した。

久保鶴橋・・・別府市大字東山／架設年：明治 37(1904)年 10 月／橋長：4.2 m  
 橋幅：1.8 m／拱矢：1.3 m／径間：2.7 m／環厚：37 cm／単一アーチ

## ■大分の石橋探訪 （おおいたのいしばしたんぼう）

石橋の魅力に取り付かれた一人の石橋研究家、元大分の石橋を研究する会会長の岡崎文雄氏が昭和 61 年から大分県に散在する大小の石橋を探し求めて 20 年、流失・撤去を含めた 618 橋の所在を確認、その歴史と諸元を記録し約 1000 枚の写真とともに電子ブックにまとめた。

## ■筆者・ . . . . . 岡崎 文雄 （おかざき ふみお）氏

大正 13 年 大分郡挾間町生まれ（現由布市）  
 昭和 57 年 宮崎県を退職  
 昭和 62 年 大分の石橋を研究する会・日本の石橋を守る会会員  
 平成 5 年 「魅せられて・里の石橋たち」共著  
 平成 6 年 「大分の石橋記念碑」自費出版  
 平成 8 年 「伝えたい・ふるさとの石橋」共著  
 平成 13 年 「宮崎県の石造アーチ橋」自費出版  
 平成 14 年 大分の石橋を研究する会 会長

（現住所：大分市緑ヶ丘 4-12-10）

## 「大分の石橋探訪」 Vol.25：日出町・別府市 © 岡崎 文雄

2007 年 9 月 21 日初版発行

筆者 岡崎文雄

編集 大分合同新聞社

制作 別府大学メディア教育・研究センター地域連携部

発行 NAN-NAN 事務局

〒 870-8605 大分市府内町 3-9-15 大分合同新聞社総合企画部内

## ■オオイタデジタルブックとは

オオイタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN（なんなん）」の一環です。NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたく願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「別府今昔」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。

まずは、クリック！！！！

